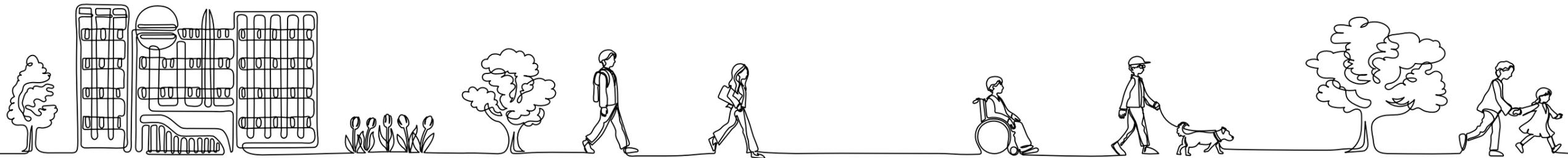




フジテレビ
SDGs アクション レポート
2024



FUJI TELEVISION
SDGs ACTION REPORT 2024



発行：株式会社フジテレビジョン

フジテレビは開局65周年を迎えました

2024年3月1日、65回目の開局記念日に「フジテレビスピリット」を公表しました。

「フジテレビスピリット」は、フジテレビの企業活動の拠りどころとなる価値観であり、ものづくりの際に大切にしている想いです。そして、それを象徴する“楽しいをぬりかえろ!”というコーポレートメッセージをカラフルなビジュアルの中に表現しています。

「楽しい」って、実はすごく奥深い。
笑うことだけじゃない。
ワクワクすること。びっくりすること。
ゾクゾクすること。泣くこと。学ぶこと。

わたしたちフジテレビは、心がポジティブに揺れ動く、
そのすべての感情が「楽しい」であると考えています。

“楽しくなければテレビじゃない”
わたしたちには、この想いがDNAとして刻まれています。
いつの時代も「楽しい」の最前線をめざしてきました。

これからの挑戦は、そんな「楽しい」を、もっとカラフルにすること。
多様な価値観が尊重される時代に、
「楽しい」とは何なのかを常に考え、創造していく。

そして生み出したコンテンツをきっかけに、
明日が、社会が、世界が、彩られていくはずだから。
まだ見ぬ「楽しい」を、あなたと一緒に作りたい。

**楽しいを
ぬりかえろ!**

トップメッセージ

TOP MESSAGE



フジテレビは、2024年3月1日に開局65周年を迎えましたが、2023年度はサステナビリティの分野においても、大きく進化を遂げた年でした。

2021年にスタートしたSDGs推進キャンペーン「楽しくアクション! SDGs」は今年で4年目に入り、益々内容を充実させています。年2回の集中強化期間中は、報道や情報制作の番組等でSDGsに関する企画を約30本放送しました。環境、社会、経済などの様々な課題について、視聴者のみなさまにお伝えできたのではないかと思います。

また、期間中に放送した特別番組『EXITの未来を本気で考える4〜フューチャーランナーズSP〜』では、2年連続でカーボンゼロを実現させました。気候変動でCO₂対策が大きな課題となるなか、番組制作過程で排出した総CO₂量を算出して、J-クレジットの購入によりオフセットし、実質CO₂排出ゼロを達成したものです。

年初には能登半島地震が発生しましたが、地震、台風、大雨など大規模自然災害に対して、防災の重要性を伝えていくことは、メディアの大きな役割であり、フジテレビは、2023年横浜市と防災・減災連携協定を締結しました。コンテンツを活かした防災プログラムを実施しており、今後更に内容の充実を図っていきます。

また2023年度は、人権尊重の重要性を改めて確認した1年でした。フジ・メディア・ホールディングスでは人権方針を策定した他、フジテレビでもコンプライアンスガイドラインを定めました。また働きやすい職場環境づくりにも努めており、「健康経営優良法人2024」に認定されました。今後もすべての人の人権を尊重し、多様な価値を受け入れるインクルーシブな社会をめざすとともに、社内においてもより働きやすい職場づくりに向けて邁進します。

フジテレビは「コンテンツ力」「発信力」というテレビが持つ大きな強みを活かしながら、これからもサステナブルな社会の実現に向けて、活動を続けてまいります。少しでもみなさまのお役に立てるよう、また喜んでいただけるよう、活動内容を充実させ、企業としての責任を果たしていきたいと考えております。

代表取締役社長

港 浩一 

パートナーシップで 伝える、変える

SDGs推進スローガン

伝える、変える

SDGs

— Transforming our World —

「伝える、変える」は私たちのSDGs推進のスローガンです。
テレビの強みを活かし、創造力と発信力で
世界を変え、SDGsが掲げる
社会課題の解決に努めてまいります。



国連グローバル・コンパクト



フジテレビの親会社フジ・メディア・ホールディングスは2018年4月より「国連グローバル・コンパクト」に署名しています。

「国連グローバル・コンパクト」は、国連と民間企業・団体が手を結び、健全なグローバル社会を築くための世界最大のサステナビリティ・イニシアチブです。人権の保護、不当な労働の排除、環境への取り組み、腐敗防止の4つの分野10の原則を掲げています。

SDGメディア・コンパクト



フジテレビは2018年12月に「SDGメディア・コンパクト」に署名し、メディアとしてSDGsの推進に努めることを約束しています。

「SDGメディア・コンパクト」は、世界中の報道機関やエンターテインメント企業に対し、その資源と創造力でSDGs達成のための活動を促すことを目的とした協力推進の枠組みです。

フジテレビのCSR・SDGs推進体制

フジテレビは、メディア企業としての社会的責任を果たすべく、2006年からCSRの専門部署を設置。
“伝える、変える”のスローガンのもとSDGs推進をはじめとした多岐にわたる活動を行っています。



港社長(中央)とCSR・SDGs推進プロジェクトチームメンバー

CSR・SDGs推進会議／プロジェクトチームメンバー

社長を委員長とする「CSR・SDGs推進会議」の体制は右のようになっています。社長・役員・局長が出席する「CSR・SDGs推進会議」を年1回開催し、年度の活動報告並びに次年度の活動方針を審議しています。また、各部署から集められた約60人の社内横断組織(プロジェクトチーム)を構成し、そのメンバーとともに活動を実行しています。役職・年齢等に関係なく多様な人材が集まることで、より豊かな発想とアイデアが生まれ、数多くの企画が実現しています。メンバーを毎年入れ替え、社内のCSR・SDGsに対する理解の浸透を図っています。

CSR・SDGs推進体制

CSR・SDGs推進会議(審議・決定)

CSR・SDGs推進プロジェクト(企画・立案)

CSR・SDGs推進会議:年1回

CSR・SDGs推進プロジェクトチーム会議:月1回

編集方針

本レポートは、2023年度にフジテレビが行った活動をまとめたものです。本業である放送事業とエンターテインメントを活かして、フジテレビらしさを大切に多岐にわたる取り組みを行ってきました。活動内容は【フジテレビのサステナビリティ・CSRサイト】を通じて随時公表していますが、本レポートはより読みやすく、みなさまにご理解いただきやすいよう編集したものです。SDGsの目標達成に向けて実施した取り組みを知っていただくきっかけになれば幸いです。本レポートにおける対象範囲はフジテレビを基本とし、一部の活動実績はフジ・メディア・ホールディングス、フジサンケイグループとして実施したものと掲載しています。

対象期間 2023年4月1日～2024年4月12日

発行日 2024年6月25日

フジテレビ・サステナビリティ・CSRサイト <https://www.fujitv.co.jp/sustainability/>

発行: 株式会社フジテレビジョン Fuji Television Network, Inc.

〒137-8088 東京都港区台場2丁目4番8号

編集: 社会貢献推進局 サステナビリティ推進部 csr.ss@fujitv.co.jp



フジテレビ・サステナビリティ・CSRサイト

伝えることでアクションを起こすきっかけを！
サステナブルな未来を ともに創る

楽しくアクション!SDGs

2年連続 SDGs特番でゼロカーボン番組を実現

『EXITの未来を本気(マジ)で考える』フューチャーランナーズSP 第4弾を放送



[2024年2月10日14:30~15:30放送] (関東ローカル)

SDGs特別番組で“自然との共生”を発信

EXITが今回本気(マジ)で考えたのは、「自然との共生」です。回復・活用・循環の3つのポイントに着目し、EXITが各分野で取り組む人々とともに自然を見つめ直しました。

CO₂実質ゼロ 地球にやさしい番組づくり

制作開始時より環境への心がけを記した「グリーンメモ」を共有。地球温暖化の原因であるCO₂排出量をできるだけ減らすよう努め、制作過程における打ち合わせ、移動、ロケ現場での弁当・ごみ・電池・電力使用量、編集作業に係るCO₂排出量を、オンラインツール「アルバート」にて算出。

やむなく排出したCO₂量の全量(0.88トン)は、「森林吸収系」-クレジット※を購入し、実質CO₂ゼロを実現しました。

※「長崎県日本伝統建築を支える森のCO₂吸収事業(0235)」を活用



「楽しくアクション!ウィーク」を実施!

番組・イベントを通じてSDGsを集中的に発信

2023年9月18日~10月1日と、2024年2月5日~18日のそれぞれ2週間をフジテレビにおけるSDGs推進の強化期間として、番組やイベントを通じて多様な視点から伝えました。持続可能な社会に向けた様々な取り組みや想いを伝えて一緒に考え、行動することで、視聴者のみなさまとともに豊かな未来を創りたいと考えています。

報道・情報番組で気候変動やSDGsの取り組みを紹介

報道局、情報制作局のレギュラー番組『Live News days』『Live News イット!』『Live News α』『めざまし8』などを中心に、毎日SDGsにまつわるトピックスを視聴者に届けました。期間中に約30本の企画を放送。日本や世界各地の取材に加え、実験などを通じて気候変動による温暖化の仕組みなども、わかりやすく解説しました。



農水省「フードシフト」×『ノンストップ!』“食の未来”を考える

9月に東京・丸の内で開催された農林水産省主催の食から日本を考えるイベント「NIPPON FOOD SHIFT FES.東京 2023」に参加しました。情報番組『ノンストップ!』によるトークイベントでは、日本が抱える「食」や「農」にまつわる課題に対し、新しい時代にあった解決法や持続可能なあり方をみんなで考え、その模様を後日放送しました。更にマルシェエリアにはフジテレビブースを出店し、体にも環境にもやさしいスロージューズを販売しました。

[2023年9月23日・24日イベント実施/29日『ノンストップ!』にて放送 毎週月~金曜9:50~11:30(関東ローカル)]



楽しくアクション!SDGs

フジ・メディア・ホールディングス傘下のフジテレビ・BSフジ・ニッポン放送を中心に各社が連携してSDGsを推進するプロジェクト。2021年にスタート以降、持続可能な社会、豊かな未来のために番組やイベントなどを通じて発信を続けています。アンバサダーはEXITが務め、4年連続で、EXIT出演のSDGs特別番組を放送しています。

●公式サイト https://www.fujimediahd.co.jp/sdgs/enjoyaction_sdgs/



SDGs特番を経験して感じたこと

(番組に携わって)多角的にSDGsを知れているなど。この間スーパーで、見た目は悪いけど安い食材が売っていて「これ買って来たよ」と嫁に見せたら、「偽善者」と言われました(笑)。普段僕たちができるとは、いっぱいあるので、そこから始めていきたいと思います。



兼近大樹

(SDGsの全ターゲットの)まだ15%しか達成されていないと。でも僕らが頑張ればあっという間に30%、40%行くんじゃないかな(笑)。普段、車とかは気を付けてはいますが、難しいですね。自分が飲みたい飲み物がせめてノンラベルであってくれと思いますし、そこからですかね。



りんたろー。

NEW!

ネイチャーポジティブ企画始動!

アクトイオ/お台場ファーム

野菜を育てる“アクション”で持続可能な未来を!



農×エンタメ “アグリテイメント”で楽しく環境貢献

2024年4月から「楽しくアクション! SDGs」の一環として、フジテレビ本社に設置した農園で野菜を育てる【アーバンファームプロジェクト】を始めました。アーバンファームとは、都市の空きスペースや屋上などを利用して行う都市型農園のことで、地産地消、CO2削減による環境保全、地域コミュニティ活性化などにも役立つとして、海外ではすでに多くの都市で取り組みが始まっています。登録した利用者みんなで野菜の種まきからお手入れ、収穫まで楽しくシェアでき、参加するだけで食や環境の課題に貢献できる仕組みになっています。

農とエンターテインメントを掛け合わせた“アグリテイメント”で、手軽に楽しく自然や生物に触れてもらう機会を提供し、気候変動問題や食料危機、自然との共生などについても考えるきっかけを届けていきます。

農園で育てているのは、「東京五角オクラ」や「寺島ナス」など日本各地で古くから栽培されてきた伝統野菜。これらは、歴史の流れの中で姿を消しつつある希少な野菜です。未来に多様なタネを残し、よりよい環境を次世代に残したいと考えています。



- 公式サイト https://www.fujimediahd.co.jp/sdgs/enjoyaction_sdgs/odaiba_farm/
- LINE公式アカウント <https://line.naver.jp/ti/p/%40855sajxu>

SDGsのレギュラー番組

テレビの強みを活かし わかりやすく楽しく発信!



『フューチャーランナーズ～17の未来～』

世界初のSDGsをテーマにしたレギュラー番組。2018年7月から制作、毎週放送を続けています。SDGsの課題解決に向けて情熱を傾ける人々を追い、その取り組みや想いなどを紹介しています。2024年3月までに延べ284人を紹介。番組では英語字幕をつけている他、過去の放送回をすべて公式サイトで視聴できます。

[フジテレビ 毎週水曜22:54~23:00放送] (関東ローカル)
[BSフジ 毎週土曜21:55~22:00放送]
●公式サイト <https://www.fujitv.co.jp/futurerunners/>



『サスティナ!～こんなところにもSDGs～』

SDGsを楽しく学べる情報バラエティ番組。ファッションやグルメといった身近な話題から、最先端の取り組み、地方創生などのプロジェクトに至るまで、ありとあらゆるテーマをピックアップ。SDGsをより身近に捉えていると言われるZ世代を中心とした若者目線で楽しく伝えています。全国ネットで放送中。

[毎週土曜9:55~10:25放送] (全国) [毎週土曜17:00~17:30放送] (TOS大分テレビ)
●公式サイト <https://www.fujitv.co.jp/sustaina/>

MC:倉科カナ・SHELLY・神尾楓珠



『地球との約束 ~心に刻む景色~』

日本各地の多様な風景の中から毎回1ヶ所を取り上げ紹介、美しい映像と自然が奏でる音、その風景を守る活動にもフォーカスします。

[毎週火曜22:54~23:00放送] (関東ローカル)
[毎週水曜21:54~22:00放送] (NST新潟総合テレビ)
●公式サイト <https://www.fujitv.co.jp/chikyu/>



『街角パレット ~未来へのたからもの~』

街が奏でる多彩な色の中に、地域の多様性や不変性を見つけ、その街らしさを探ります。未来に残したい地域の姿やそこに宿る想いを伝えます。

[毎週日曜11:45~11:50放送] (関東ローカル)
●公式サイト https://www.fujitv.co.jp/machikado_palette/



『体感! サステナWAVE』

SDGsを自分ごとに! フジテレビアナウンサーが、サステナブルな取り組みを体感! 不用品をアップサイクルしたり、無駄をなくす再利用法などを紹介します。

[毎週火曜21:54~22:00放送] (関東ローカル)
●公式サイト https://www.fujitv.co.jp/sustaina_wave/



『めざまし8』

「楽しくアクション! SDGs」のアンバサダーを務めるEXITが、月1回のレギュラーコーナーで様々な社会を変える取り組みを取材し、スタジオで伝えました。

[毎週月~金曜8:00~9:50放送]
●公式サイト <https://www.fujitv.co.jp/mezamashi8/>
※コーナーは2023年9月終了



『Live News イット!』

気象予報士の資格を持つSnow Man阿部亮平さんがSDGsの様々な取り組みを伝える月1特別企画。お天気キャスターのガチャピンとスタジオで生解説しました。

[毎週月~金曜15:45~19:00放送]
●公式サイト https://www.fujitv.co.jp/livenews_it/
※コーナーは2024年3月終了



『GO!GO!チャギントン』

子どもたちに大人気の「チャギントン」の番組内でSDGsについて学べるコーナーを月1回放送。親子でSDGsに親しめる内容をやさしく伝えていきます。公式YouTubeでは過去の放送回をすべて視聴できます。

[毎週日曜6:15~6:30放送]
●公式サイト <https://www.fujitv.co.jp/chugginton/sdgs.html>

災害から命を守る

Protect Lives from Disasters



地域の防災力向上をめざす
横浜市と防災・減災協定締結



東日本大震災から13年。未曾有の被害を出した大惨事の後も災害は絶えません。2024年1月1日に、石川県能登地方で震度7の地震が発生。マグニチュード7.6は、能登地方で記録が残る1885年以降で最大となりました。被災地の復興を支援するとともに、少しでも今後の被害を減らし、ひとりでも多くの命を救うためにテレビの力を活かした防災・減災への取り組みに力を入れています。



長年の取材で蓄積した映像コンテンツで命を守るきっかけを

フジテレビと横浜市は、2023年12月「防災・減災の市民啓発に関する連携協定」を締結しました。これに基づきフジテレビが持つコンテンツを使って、防災・減災への意識と備え向上のための様々な啓発活動を行っています。フジテレビでは東日本大震災以降、未曾有の災害を決して忘れない教訓とするため、震災特番『わ・す・れ・な・い』をシリーズで放送。長期にわたって被災地取材し撮影した膨大な映像や、貴重な証言から得た教訓を直接市民に伝えることで、命を守るアクションへのきっかけにしたいと考えています。



映像の力で防災を自分ごとに

横浜市が開催した防災研修で、防災士の資格を持つ木村拓也アナが、東日本大震災発生直後の映像を分析し、その時人々がとった行動などをわかりやすく解説。更に被災地を長年取材してきたディレクターが現地でも得た知識、教訓などを伝え、都市部での防災にどう活かすか考えました。また、地域の防災活動に携わる自治会、NPO団体、行政、要支援者など多様な立場の方とともに避難時の課題について議論しました。

〔令和5年度 防災・減災推進研修〕2023年12月10日・2024年3月16日実施〕

めざましくんも参加 防災親子イベント

横浜市民防災センターで行われた防災イベントで『めざましテレビ』と横浜市消防音楽隊がコラボし、生演奏と防災プログラムを実施。原田葵アナとめざましくんが来場者と一緒にダンスをした他、防災クイズや、ガチャピンを使った毛布担架による搬送体験なども行いました。イベント全体の来場者は約8,000人となり、多くの親子に、防災に楽しく触れてもらう機会を提供しました。

〔「防セン春のくるまつり」2024年3月9日実施〕

能登半島地震 被災地の復興を支援

「サザエさん募金」を実施

石川県能登地方で起きた地震を受け、被災地救援のため1月5日～2月15日まで「フジネットワーク サザエさん募金」を実施しました。社内各担当部局、系列局の協力を得て集まった義援金は、総額5億2,386万566円となりました。この義援金は日本赤十字社を通じて、被災者のために活用されます。



©長谷川町子美術館

「サザエさん募金」

「フジネットワーク サザエさん募金」は、国内外で大きな人的被害を伴う大規模災害等が発生し、緊急支援を必要とする際に実施するものです。フジネットワーク系列のテレビ局28社、及びBSフジがその現状を伝え、被災者のためにテレビ放送等を通じて、広く寄付を呼びかけます。集まった義援金は、日本赤十字社、ユニセフ等の信頼できる団体に寄付し、被災地支援に活用されます。

「ずっとおうえんプロジェクト」サザエさんが志賀町・七尾市を訪問

能登半島地震の被災地を元気づけようとサザエさんが、震度7を観測した石川県・志賀町の小学校や、家屋の倒壊や液状化の被害も大きかった七尾市の保育園・こども園・避難所等の計13ヶ所を訪問しました。小学校ではサザエさんが子どもたちの登校をお出迎えした他、保育園や避難所などでは、サザエさんのオープニング曲と一緒に歌ったり、じゃんけん大会をしたりしました。



〔2024年3月13日・14日実施〕



フジテレビでは、2011年の東日本大震災以降、地震・台風・大雨など大規模自然災害による被災地を「ずっとわすれない」という想いで、復興支援活動を行っており、これまでに約220ヶ所を訪問しています。テレビ局ならではのエンターテインメント力を活かし、ニーズに合わせた支援をこれからも続けてまいります。

震災特別番組『わ・す・れ・な・い 巨大地震再び・・・教訓は生きたのか』『あの日』以来の大津波・・・どう命を守ったか

13年にわたり放送してきたシリーズ『わ・す・れ・な・い』。これまで東日本大震災で発生した各地の津波を検証し、どうすれば命を守ることができるのか、映像検証を通じて考えてきました。正月の能登半島を最大震度7の巨大地震が襲い、そしてやってきた大津波。今回注目したのは、能登半島地震で撮影されたドライブレコーダーの映像です。そこに映っていたのは、強烈な揺れと再び日本を襲った津波被害の恐ろしさでした。その時住民はどんな行動をとったのか。津波到達地で撮影された数々の映像と証言を交えて、命を守る行動を検証しました。



〔2024年3月11日14:50～15:45放送〕(FNS系列18局で放送、一部地域では別日時)



関東大震災から100年 テレビ局の垣根を越えて災害から命を守る

民放・NHK6局防災プロジェクト #いのちともに守る

3月から9月に局の垣根を越えたキャンペーンを展開し、イベント・放送を通じて自分の命、そして大切な人の命を守るために何ができるのかを考えました。

●「ぼうさいこくたい2023」で「ぼうさい朗読会」を実施

在京テレビキー局5局とNHKは、内閣府などが実行委員として主催するイベント「ぼうさいこくたい」に参加しました。6局のキャラクターが集合し、「いのちを守るクイズ大会」を実施した他、アナウンサー防災報道シンポジウム「本当に心に響く“呼びかけ”を考える」を展開。またフジテレビは、東日本大震災で被災された方々の実際の経験を基に物語を作成し、親子で参加できる「ぼうさい朗読会」を実施しました。声に出して読むことで災害を“自分ごと”にしてもらいたいという想いを込めています。

[2023年9月17日・18日実施]

● 関東大震災100年にあわせて特別番組を放送

関東大震災が発生した9月1日周辺に、各局が特別番組やレギュラー番組内で震災関連企画を放送しました。フジテレビは、9月3日に特別番組『イット!×わ・す・れ・な・い特別編 関東大震災100年の真実』で、当時の記録や証言をたどり、東京の街に潜む地震火災の危険性などを考えました。

[2023年9月3日16:00~17:25放送] (関東ローカル)



「ぼうさい朗読会」

系列局と一緒に防災イベントを実施

防災出前授業「楽しくソナエル防災」を実施

東日本大震災を受け、2016年からガチャピン・ムックが防災ナビゲーターを務める「みんなの防災プロジェクト」がスタート。自助力、公助力の向上を目的とした防災啓発活動「みんなの防災+ソナエ」を日本全国で開催しています。

(2023年度は14ヶ所実施)

このプロジェクトと連携して、オリジナルの出前授業「楽しくソナエル防災」を愛媛県の小学校や、鹿児島テレビ、テレビ長崎でのイベントで実施。大災害が起きた時を考えて何を備えておけばよいのかをクイズ形式で学ぶプログラムです。ガチャピンの人形を使った「毛布担架」も子どもたちに体験してもらい、防災・減災への意識向上につなげています。各系列局それぞれの地域の実情を踏まえた内容を盛り込み、より生活に密着した防災対策を伝えています。

[2023年6月15日・16日愛媛県/9月24日鹿児島県/2024年3月9日長崎県にて実施]



アイドルの大型イベントでデジタル防災避難訓練を実施

お台場エリアで開催した「TOKYO IDOL FESTIVAL 2023」で、ライブ中に大地震が発生したという想定のもと、デジタル避難訓練を実施しました。スマートフォンを活用し、安否確認等のデジタル点呼、災害情報の共有などを試みた他、ステージに上がったアイドルが参加者の避難誘導を行いました。

[2023年8月4日実施]



東日本大震災の復興支援

ふくしま浜街道・桜プロジェクト

フジ・メディア・ホールディングスは、「ふくしま浜街道・桜プロジェクト」を11年にわたってサポートしています。このプロジェクトは、地震や津波、更に放射能の影響を受けた福島県で「30年後に子どもたちが誇れる桜並木を作りたい」と始まった活動です。

その趣旨に賛同し、2013年度から協賛を開始、桜の植樹活動を続けています。今回、福島県広野町で植えた桜は46本、合わせて1,496本になりました。福島の地が桜で満開となる日を楽しみに、グループ全体で植樹活動を続けていきます。

[2024年2月3日実施]



「東北・みやぎ復興マラソン」をサザエさん一家がサポート

2019年以降、台風やコロナの影響で4年連続中止となっていた東北最大級のマラソン大会「東北・みやぎ復興マラソン」が5年ぶりに開催され、スペシャルアンバサダーのサザエさん一家が応援に駆けつけました。東日本大震災の復興を支援する目的で2017年から始まった「東北・みやぎ復興マラソン」。フルマラソンのコースは、7割が東日本大震災時に津波によって浸水したエリアを通るため、走りながら復興の軌跡や変わりゆく街並みを感じることができます。大会では644組の親子が参加した親子ペアランや、305人の子どもが参加した2kmのキッズランも同時に行われ、サザエさん一家もエールを送りました。

[2023年11月5日実施]



©長谷川町子美術館



いかなる場合も放送を継続するために

BCP対策・防災への取り組み

系列各局と協力して毎年、大規模な災害放送訓練を実施しています。最大震度7の地震で大津波警報が発表され、津波が襲来する想定で特別番組の訓練を行いました。ドローンの活用や、系列各局のスタジオのリレー中継をした他、津波観測スーパーの見せ方やシステム構築についても検証し、視聴者への伝え方を再確認しました。今回見えてきた課題を各局の態勢に反映させ、迅速な災害報道につなげます。



春と秋に全社で「防災ウィーク」を実施

大災害が発生した際にも放送を継続するため、2011年から「防災ウィーク」を年に2回設け、社内働く人々を対象にした防災訓練などを実施しています。春の防災ウィークでは、能登半島地震を経験した石川テレビと連携し、報道対応などについて新たな対策も検討しました。



安否確認システム訓練 専用アプリなどで有事の際の社員・スタッフの安否状況を確認。

防災シミュレーション訓練 発災時の対応、防災備品の扱い確認、AED使用方法等の実演。

防災ディスカッション動画配信 能登半島地震を受け、発災時にとるべき行動や、事前対策について防災士の資格を持つフジテレビアナウンサーと芝消防署長とディスカッション。社内に動画を配信。



地球環境のために

For our Planet



美しい地球を未来にパス！

バボちゃんクリーンプロジェクト



ワールドカップバレーでソーシャルアクション

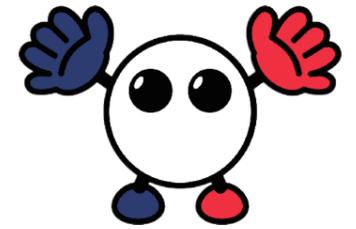
会場周辺をみんなでキレイに！

9月から10月にかけて開催された世界的スポーツイベント「FIVB ワールドカップバレー2023」。この大会に先立つ9月14日、会場となる国立代々木競技場周辺を清掃するイベント「バボちゃんクリーンプロジェクト」を実施しました。訪れた人にごみのないクリーンな環境で観戦してもらいたい、そして環境意識の醸成を図りたいとの願いから始まったプロジェクトです。大きなスポーツイベントにおいて初めての環境に配慮したアクションとなりました。

この取り組みはフジテレビと、ごみのポイ捨て問題に取り組む認定NPO法人グリーンバード、日本バレーボール協会、更にこの活動に賛同する企業が参加するソーシャルアクションです。みんなの想いと共創が社会を変えるきっかけに。次世代に美しい地球を残すため、今後もこうした取り組みを進めていきます。[2023年9月14日実施]

楽しく拾って楽しく捨てる仕掛け

「バボちゃんクリーンプロジェクト」では、テレビ局の持つエンタメ性を活かし、ごみを拾いたくなる、そして楽しく捨てられる様々な仕掛けを施しました。ごみ袋はキュートなバボちゃんのデザインで、ごみをたくさん集めて袋の口を結ぶと丸いバボちゃんに。更に、丸くなったバボちゃんごみ袋は、ボールに見立ててアタック！会場のごみ集積場所に設置したアタック用スライダーの下には、たくさんのごみが集まりました。



環境にやさしい用具を使っています

バボちゃんごみ袋

お米由来のバイオマスプラスチック「ライスレジン®」製で、お米を25%使用。食用に適さない古米や、処分されてしまうような破碎米などを原料としています。

トング

すべてリサイクルが容易な素材で制作したもの。持ち手の部分は、家庭から回収した使用済みの食品保存袋が生まれ変わって、グリップとして使われています。

パブリックビューイングでもごみ袋配布

大会期間中には、試合会場とパブリックビューイング会場となった渋谷「MIYASHITA PARK」で、バボちゃんごみ袋を来場者に配布しました。訪れた多くの観客は、かわいごみ袋を手にとると笑顔に。

観戦中は、芝生に敷いてその上に座り、その後にごみを入れて持ち帰る人が数多く見られました。パブリックビューイングには、合わせて約5,500人が訪れ、男子・女子の試合ともに大きな声援が送られました。



中継スタッフのTシャツは環境にやさしい新素材

中継スタッフのウェアの一部には、SONYが生み出した新素材トリポーラスを採用しています。トリポーラスとは、もみ殻から生まれた天然由来のカーボン素材です。世界中で排出されている米のもみ殻を再利用することで、環境負荷の低減に努めています。





伝え合う喜びを！
「あなせん」300校達成



子どもたちの笑顔と未来のために

子どもたちの可能性や選択肢が広がり、その未来が笑顔あふれるものになってほしいという想いで、多様なプログラムを提供しています。アナウンサーをはじめ、フジテレビで働くスタッフが子どもたちと直接向き合い、コミュニケーションやテレビの仕事などを伝えています。

アナウンサーによる出前授業「あなせん」

アナウンサーによるコミュニケーションの出前授業「あなせん」は、11月8日に実施した西東京市立向台小学校で300校目となりました。2005年にアナウンサーが主体となってこのプロジェクトを始めて以来、新人からベテランまで、ほぼすべてのアナウンサーが先生として子どもたちの前に立ち、「言葉を通じたコミュニケーション」を教えています。

授業で大切にしているのは、人とつながり、豊かな人間関係を築いてもらうためにも「伝え合う喜び」を感じてもらうこと。アナウンサーのスキルとテレビ局の持つエンタメの力で、子どもたちのコミュニケーション力向上を応援しています。 ●公式サイト <https://www.fujitv.co.jp/csr/anasen/>



2023年度の実施 小学校22校 約1,880人

19年間で 延べ309校 2万4,500人

(2024年3月末現在)

- ・講座内容:スピーチ/インタビュー/音読
- ・対象:関東1都6県の小学3年生~6年生



子どもたちから届いた手紙



●あなせん特別編 東京文化会館と朗読×生演奏コラボ授業

東京文化会館のアウトリーチ活動とコラボし、音楽の演奏とアナウンサーの朗読を合わせたプログラムを2016年から実施しています。今回は、オーボエ、ファゴット、ピアノの演奏に合わせて藤本万梨乃アナが「魔法使いの弟子」を朗読しました。

江東区立第七砂町小学校[2023年12月22日実施]



デジタル紙芝居 光村図書の教科書とコラボ

コロナ禍でうち時間を楽しんでもらいたいという想いから、2020年にスタートした「デジタル紙芝居」。フジテレビの美術担当者によるオリジナルの作画とアナウンサーの朗読によるこれまでの8作品に加え、教科書会社 光村図書とのコラボ作品として新たに「やまなし」「ふきのとう」を制作しました。

●公式サイト <https://www.fujitv.co.jp/csr/kamishibai/>

教科書コラボ作品「やまなし」を使って音読の出前授業

●武蔵野プレイス ナレーション体験



[2023年12月5日実施]

東京都武蔵野市の武蔵野プレイスで小学校高学年を対象に特別授業を実施。配役を決め、映像に合わせてセリフを読む朗読に挑戦しました。

●ダヴィンチマスターズ特別編



[2024年1月28日実施]

子どもたちの非認知能力向上のために生まれた一般社団法人「ダヴィンチマスターズ」のイベントで、わくわく・ぶんぶんなど感情のテーマに沿って「やまなし」の物語を音読しました。



食育出前授業「ハロー!どっこくん」



©フジ・メディア・ホールディングス/CSR2010



バランスよく食べることや運動、排泄の大切さを教えるアナウンサーによる食育出前授業を行っています。うんちのキャラクター「どっこくん」のオリジナル紙芝居の読み聞かせと「どっこくん体操」で構成されたプログラムを全国の幼稚園、保育園やイベント等で実施しています。2010年にスタートし、これまでに203ヶ所、約24,400人を対象に行いました。(2024年3月末現在)

●公式サイト <https://www.fujitv.co.jp/csr/dokko/>

鹿児島テレビ「KTSすこやかふれあいフェスティバル2023」 [2023年4月23日実施]
NST新潟総合テレビ「NSTまつり2023」 [2023年9月23日実施]
テレビ宮崎「ハロウィンかぼちゃ祭り&食べKID秋フェス」 [2023年10月21日実施]
調布市立宮の下保育園 [2023年6月23日実施] アイグラン保育園高田東 [2023年7月6日実施]
新宿区立あいじつ子ども園 [2023年7月19日実施] 鎌倉しろやま幼稚園 [2023年12月4日実施]

かけはしプロジェクト



小学校の先生方から「メディアリテラシーやテレビの仕事についての疑問に答えるキャリア教育の場を設けてほしい」との要望を受けスタート。授業でメディアや情報について学ぶ小学5年生の子どもたちから、質問を動画で送ってもらい、各部署のスペシャリストが動画でお答えする取り組みです。番組づくりの工夫や、放送の裏側など素朴な疑問をたくさん寄せていただいています。

●公式サイト <https://www.fujitv.co.jp/sustainability/kakehashi/>

岡山大学附属中学校 [2023年6月14日実施]
奈良女子大学附属小学校 [2023年9月21日実施]
春日部市立緑小学校 [2024年2月29日実施]

病気と闘う子どもたちに笑顔を

そらぶちキッズキャンプ

北海道滝川市にある難病の子どもたちのための医療ケア付きキャンプ場「そらぶちキッズキャンプ」と、全国各地の病院をオンラインでつなぎ、北海道の自然を感じてもらいイベントを実施しました。フジテレビは当団体の活動趣旨に賛同し、2009年から朗読会や食育イベント等を開催しています。今回は黒瀬翔生アナがキャンプ場からオンライン中継で、全国の12の病院や施設で闘病中の約100人の子どもたちに大自然の様子を伝えた他、雪をプレゼントし感触を楽しんでもらいました。

[2024年1月25日・26日実施]



ハートリープロジェクト

入院中の子どもたちに楽しい時間を過ごしてほしいと、フジテレビ×産経新聞×心臓病の子どもたちを救う「あけみちゃん基金」が共同で実施するハートリープロジェクトを、3つの病院で実施しました。病と闘う子どもたちに対してアナウンサーが読み聞かせをしたり、めざましじゃんけんで遊んだりしました。就学児には、発声・滑舌練習をしたあと『めざましテレビ』『きょうのわんこ』のナレーションに挑戦してもらうなど、笑顔あふれる時間となりました。

埼玉医科大学国際医療センター [2023年6月16日実施]
愛媛大学医学部附属病院 [2023年8月28日実施]
国立循環器病研究センター [2023年10月25日実施]



産経新聞社 提供

社会全体で子どもたちをサポート

親を頼れない子どもたちの声を届ける「コエール」

「親を頼れない子どもたちを社会全体で支えていきたい」という想いに賛同し、認定NPO法人ブリッジフォースマイルを2012年からサポートしています。スピーチイベント「コエール」は、社会的養護を必要とする子どもたちが「自身の体験」を語ることで現状をもっと知ってもらおうというものです。スピーチをより伝わりやすくするために奥寺健アナ・梅津弥英子アナ・大川立樹アナが声の出し方や滑舌法、効果的な伝え方を教えました。[2023年6月11日実施]



2014年度からブリッジフォースマイルを通じて書籍を寄付し児童養護施設から巣立つ子どもたちを応援しています。フジテレビからの2023年度の寄付総額は、**9万3,365円**になりました。

警視庁と連携し社内見学ツアー実施

犯罪や事故で家族を失った子どもたちを励まそうと、警視庁犯罪被害者支援室と共同でフジテレビの社内見学ツアーを実施しました。2019年から開催していて今回で3回目となります。夏休みの社会科見学として実施し、『めざまし8』のスタジオでは竹内友佳アナ・安宅晃樹アナを実際のカメラで撮影。副調整室ではコメントに合わせて照明やカメラの切り替えをするなどテレビ局の仕事を体験してもらいました。[2023年8月22日実施]



若い才能を発掘・応援

ヤングシナリオ大賞



(左から)
内山哲生さん(佳作)、島崎杜香さん(佳作)、
阿部凌大さん(大賞)、片岡陸さん(佳作)

「ヤングシナリオ大賞」は、若手脚本家の発掘をめざして1987年に設立されたシナリオコンクールです。若手脚本家の登竜門とも呼ばれ、野島伸司さんや坂元裕二さんなど数多くの作家を輩出してきました。33回目の大賞を受賞したのは、『silent』の脚本を手掛けた生方美久さんです。そして、35回目となる2023年度は応募総数1,679編の中から阿部凌大さんの作品「高額当選しちやいました」が大賞に選ばれました。若い才能を発掘すべく、この制度を継続していきます。

フジテレビ×NETFLIX 慶應義塾大学で寄附講座を開講

2023年4月から、慶應義塾大学で「コンテンツビジネスの現状と将来～現場のプロフェッショナルから聞く最新事情～」と題する寄附講座を開講しました。講師には、フジテレビの現場で働くプロデューサーや、映画会社の幹部の他、政府や海外からの関係者など、数多くのプロを迎えて多様な授業を展開。講義の集大成としてグループに分かれて学生による新たなコンテンツビジネスについての提案をしてもらいました。2024年4月からも同講座を開講。こうした講座を通じてコンテンツビジネスの世界で働きたいという若い世代の夢を応援するとともに、日本のソフトパワーを海外にも広げることができるコンテンツビジネスの魅力を伝えていきたいと考えています。[2023年4月～7月実施]



『私のバカせまい史』×高校生

バラエティ番組『私のバカせまい史』が、キャリア教育の一環である高校生の課題解決型授業をサポートしました。課題解決についてグループディスカッションし、プレゼンテーションするというもので、番組側が神奈川県の高校生たちに対し「県内在住高校生の視聴率100%を獲得せよ!」というミッションを課しました。高校生の本気のプレゼンに制作陣が遠慮なしで切り込んでディスカッション。後日、高校生たちはSNS戦略会議にも参加したり、スタジオ収録も見学し、今後のフォロワー獲得の戦略を練るなどしました。[2023年8月4日実施]



共生社会をめざして

For Inclusive Society



パキスタン・イスラム共和国(2023年度)



50周年 FNSチャリティキャンペーン



ウガンダ共和国



モザンビーク共和国



マラウイ共和国



アフガニスタン・イスラム共和国

これまで100余りの国・地域を支援してきました

世界の子どもたちの笑顔のために



「パキスタン・イスラム共和国」を支援

フジテレビ系列全28局とBSフジが協力し、厳しい環境で暮らす世界の子どもたちの支援を行うFNSチャリティキャンペーン。2023年度はちょうど50周年の節目を迎えました。放送やイベント、SNS等で募金活動を行い、ユニセフを通じて寄付しています。2023年度は、モンスーンで国土の3分の1が水没する被害を受けた「パキスタン・イスラム共和国」を支援しました。倉田大誠アナが水害、感染症、貧困などに苦しむ子どもたちや家族取材し、8月1日、2日の2日間にわたって『めざまし8』で放送、視聴者のみなさまから大きな反響をいただきました。2024年度は2023年11月に発生したマグニチュード6.4の地震で大きな被害を受けた「ネパール」の子どもたちを支援しています。

2023年度の最終募金総額
5,436万1,613円

経費を控除した**4,977万6,494円**が公益財団法人日本ユニセフ協会を通じて現地の子どもたちの支援のために使われます。

これまでの寄付総額 **約45億円**



お台場冒険王にて「Pass the Smile」初披露(2024年3月)

50周年にあわせキャンペーンソングを制作

50周年にあたって、FNSチャリティキャンペーンをより多くの方々に知っていただくきっかけになればと、50周年記念キャンペーンソング「WINDY ROAD」を制作しました。アーティスト宇海-UUMI-さんと澤近泰輔さんのコンビで、「WINDY ROAD」(Chageさん作曲の原曲をリメイク)をお台場冒険王の他、様々なステージで披露していただきました。2024年度は、八神純子さんも加わり、新たなキャンペーンソング「Pass the Smile」を制作、八神さんと宇海-UUMI-さんのデュエットを通して、様々な活動を展開する予定です。

その他の主な取り組み

- ① 代金の一部を寄付に活用する「希望のブーケ」をフジテレビフラワーネットで販売。
- ② フジテレビ内のレストランで、パキスタン風チキンカレーを提供。代金の一部を寄付。(2023年7月26日・8月16日)
- ③ フジテレビ社屋で「FNSチャリティ産直市」を開催し、福島県や新潟県津南町などが出展。売上の一部を寄付。(2023年11月4日)
- ④ 高知市の土佐女子高等学校で倉田大誠アナの取材報告会を開催。(2024年1月17日)
- ⑤ FNS出資映画『ミステリと言う勿れ』の興行収入から600万円を寄付。
- ⑥ 『めざまし8』で放送したパキスタン・イスラム共和国の取材レポートをBSで3回、CSで4回放送。



社屋イルミネーションAURORA[∞] ～アウェアネスカラー～

“誰一人取り残さない”社会の実現に向けて

フジテレビの社屋イルミネーションAURORA[∞](オーロラ)を活用し、社会課題への支援の意思を色で表すアウェアネスカラーのライトアップを2015年から継続しています。

●公式サイト <https://www.fujitv.co.jp/aurora/>



2023年度 実施したライトアップ一覧

3月31日～4月2日 ● 世界自閉症啓発デー	9月21日～22日 ○ 国際平和デー	10月14日～16日 ● 臓器移植への理解促進	12月1日～3日 ● 世界エイズデー
4月21日～23日 ● LGBTQ等の人権啓発	9月23日～24日 ● 手話言語の国際デー	11月1日～5日 ● 児童虐待防止	1月19日～21日 ● 障害者権利条約発効日
6月3日～5日 ● 環境の日	9月29日～10月1日 ● 乳がんの予防啓発	11月10日～12日 ● DV・暴力根絶	3月8日～10日 ● 国際女性デー
8月1日 ● 水の日	10月6日～8日 ● 世界脳性まひの日	11月14日 ● 世界糖尿病デー	

ライトアップとともに多様な形で情報を発信

● 国際女性デーで共同キャンペーン

NHKと民放各局(フジテレビ・日本テレビ・テレビ朝日・TBS・テレビ東京・TOKYO MX)が連携し、国連が定める国際女性デーに合わせ、女性の健康的な生き方につながる様々な情報を発信するキャンペーンを展開しました。7局のアナウンサーらが集まり、進学、就職など人生の岐路に立つ学生たちを応援するトークイベントの公開収録を行い、それぞれのメディアがテレビなどで発信。また、フジテレビでは『ノンストップ!』で今の女性のあり方を徹底討論、『Live News イット!』では、性的同意について考えるなど、5つの番組で多様な視点から、女性の生き方や体と心をめぐる様々な課題について伝えました。



● オレンジリボン(児童虐待防止)でお祭りコラボ

フジテレビが毎年支援している「ドリーム夜さ来い祭り」。11月のオレンジリボン=児童虐待防止推進月間に合わせて社屋を“オレンジ”色にライトアップしました。50周年を迎えたチャリティキャンペーンとのコラボレーションとして、キャンペーンソング「WINDY ROAD」を宇海-UUMI-さんが熱唱、それに合わせて多くの観光客や踊り子たちが踊り、会場は熱気に包まれました。

[2023年11月4日・5日実施]



「ユニバーサルマナー検定」を受講

障害者や高齢者へのさりげない配慮を学ぶ「ユニバーサルマナー検定」3級の講習会をフジテレビ本社で実施し、フジ・メディア・ホールディングス傘下の8社から40人が受講しました。講義や様々な事例を通じて、障害者や高齢者など多様な人々に対する正しい理解と接し方を学びました。



[2024年3月12日実施]

ふくのわプロジェクト

不用になった衣服を回収、売却し、収益金をパラスポーツ(障害者スポーツ)の支援に充てる「ふくのわプロジェクト」に参加しています(主催:産経新聞社)。2020年から社員食堂の横に専用ボックスを設置し、衣服を回収しています。



2023年5月～2024年3月末までに
約**768kg**を回収・寄付しました! >> **3.2t!**



地域とともに

With the Community



合同清掃を実施

フジ・メディア・ホールディングス合同清掃活動

フジ・メディア・ホールディングスでは、合同清掃活動を2012年より継続して行っています。2023年度は、7月、10月、3月の3回実施、7月は4年ぶりに開催された夏イベント「お台場冒険王」の前日にお台場エリアをきれいにしました。

[2023年7月21日・10月10日・2024年3月15日実施]

サザエさんと「ごみゼロの日」に清掃活動

5月30日は、語呂合わせで「ごみ(5)み(3)ゼロ(0)「ごみゼロの日」」。この日に合わせてFNS系列各局と全国規模での取り組みとして清掃活動を実施しました。海と日本PROJECTの特別推進パートナーを務めるサザエさんも参加。お台場のビーチと美しい街を未来へつなぐため、活動を継続していきます。

地域とともにやっている活動

清掃キャンペーン

臨海副都心に事業所がある会社や団体で構成される「東京臨海副都心まちづくり協議会」では、年に2回「清掃キャンペーン」を行っています。フジテレビも毎回参加し、地域と連動した活動にも積極的に取り組んでいます。

[2023年10月18日・2024年3月13日実施]

チューリップ球根植え

フジテレビ本社ビル裏手のシンボルプロムナード公園で東京臨海副都心まちづくり協議会が主催する「花と緑のフラワーフェスタ・チューリップ球根植え」に参加しました。フジテレビからは14人が参加、近隣の企業・団体と一緒に約2万球を植えました。春には見事な花が訪れた観光客らを楽ませました。 [2023年11月29日実施]

フジテレビが受賞した番組・作品

スティービー・アジア・パシフィック賞 銀賞 2023年6月受賞

『TOKYO IDOL FESTIVAL 2022』

[2022年8月開催]

2023年 日本民間放送連盟賞 優秀賞 2023年9月受賞

『ザ・ノンフィクション たどりついた家族2』

[前編:2023年2月26日/後編:2023年3月5日放送]

『木曜劇場 silent』

[2022年10月6日~12月22日放送]

MCPCアワード2023モバイルテクノロジー賞を受賞 2023年11月受賞

『東京マラソン2023中継』での世界初の映像伝達技術が評価

New York Festival TV & FILM Awards 2024年4月受賞

ドキュメンタリー・The Arts(芸術)部門 銀賞

『ザ・ノンフィクション からだに記す女たち ~女体書道を願うわけ~』 [2023年11月5日]

ドキュメンタリー・Human Rights(人権)部門 銅賞

『最期を選ぶ ~安楽死のない国で 私たちは~』 [2023年10月7日]



『木曜劇場 silent』



『ザ・ノンフィクション からだに記す女たち ~女体書道を願うわけ~』

顕彰制度

地球環境大賞



地球温暖化防止やSDGsに取り組み、成果を挙げている企業・団体等を表彰する第31回「地球環境大賞」(主催・フジサンケイグループ)の授賞式が4月17日、東京・元赤坂の明治記念館で開かれました。環境に配慮した新しい暮らしの拠点の創出で大賞に輝いた東急株式会社と町田市などに表彰状が贈られました。授賞式後のレセプションには秋篠宮ご夫妻が出席され、受賞者たちと親しく懇談されました。フジテレビは、この顕彰制度をサポートすることで環境と経済、そして社会との調和がとれた豊かな社会づくりに貢献したいと考えています。

● 地球環境大賞特番を放送

『地球環境大賞2023 富士山 湘南 北海道は今…みんなで救うニッポンの未来』

湘南・葉山の海から磯焼けで消失していく海藻の危機に対する藻場再生の取り組みや世界遺産・富士山に投棄されたごみの惨状など環境問題に取り組む日本の企業や団体の活動、最新技術について伝えました。

[2023年6月10日16:00~17:00放送] (関東ローカル)

[2023年6月25日17:00~18:00放送] (BSフジ)

第34回高松宮殿下記念世界文化賞

高松宮殿下記念世界文化賞
PRAEMIUM IMPERIALE
IN HONOR OF PRINCE TAKAMATSU

世界の優れた芸術家を顕彰する「高松宮殿下記念世界文化賞」(主催・公益財団法人日本美術協会= 総裁・常陸宮殿下)の第34回授賞式典が10月18日、明治記念館で行われました。フジテレビはこの顕彰制度の趣旨に賛同し、創設以来、社を挙げて支援しています。1997年からは若手芸術家を支援する制度を設け、第26回はルーラル・スタジオ(アメリカ)/ハーレム芸術学校(アメリカ)に贈られました。また、授賞式の模様とともに受賞者を紹介する特別番組も放送しました。

[2023年11月17日24:55~25:55放送]

絵画部門: ヴィヤ・セルミンズさん (アメリカ)
彫刻部門: オラファー・エリアソンさん (アイスランド/デンマーク)
建築部門: ディエド・フランシス・ケレさん (ブルキナファソ/ドイツ)
音楽部門: ウィントン・マルサリスさん (アメリカ)
演劇・映像部門: ロバート・ウィルソンさん (アメリカ)
若手芸術家奨励制度: ルーラル・スタジオ (アメリカ) /ハーレム芸術学校 (アメリカ)



働きやすい職場環境

フジテレビ健康経営宣言

当社は、社員が健康であることを重要な経営課題のひとつと捉え、「健康経営」の取り組みを推進していきます。豊かで多彩なコンテンツを世の中に発信する企業として、まずは社員ひとりひとりが幸せで心身ともに健康であることが必要と考え、社員およびその家族のみなさまの健康維持・増進を積極的に支援してまいります。(2023年10月制定)



2024年度新入社員研修でふくしま浜街道・桜プロジェクトに参加

ダイバーシティ&人材育成

人材の多様性

国籍、学歴、性別を問わず、あらゆる人材を幅広く採用し、その能力を発揮できる環境づくりに努めています。海外の大学を卒業する学生や、外国籍の方の採用も行っています。障害者雇用についても積極的に行っており、番組制作現場で働く社員もいます。また、定年を迎えた社員も65歳までの継続雇用を行い、それまでの経験を活かした業務や後進育成を担っています。

人材育成

社員ひとりひとりが、自らの成長を実感しながら日常の仕事に取り組めるような研修制度やセミナーの充実を図っています。

- 階層別研修
- マルチワーク制度
- 海外研修・留学制度
- フジテレビカレッジ

「社内外の今起きていること、今知るべきこと、今身につけるべき武器」を自律的に学ぶ機会を提供



2024年度新入社員研修で福島県・熊町小学校(3.11当時のまま)を視察

女性活躍推進に基づく行動計画

採用した労働者に占める女性労働者の割合、男女の平均継続勤務年数の差異、管理職に占める女性労働者の割合などは、国の定める目安値を超えており、女性の活躍が比較的進んでいます。しかし、これまで以上に女性が活躍できる職場環境を作るため、次のように行動計画を策定しました。

目標1 「採用した労働者に占める女性労働者の割合」が30%以上になるように意識して採用活動を進める > 2024年度採用実績 **43.8%**

目標2 「男女の平均継続年数の差異」を中長期的な期間でも維持・縮小できるように努力する > 2024年3月末 平均継続年数差異 **3.18年**

働きやすい職場をめざして

より柔軟な働き方・多様な働き方を推進することで生産性の向上をめざすとともに、ひとりひとりが仕事とプライベートをとるに充実させることができるような制度を設けています。

● 休暇を取りやすい環境整備

- まとまった休みを取りやすくするための有給取得奨励日、(ハッピーホリデー)を設置
- 時間単位での年次有給休暇を取得できる制度を整備

● テレワーク・時差出勤の導入

- 午前9時半から午後5時半までの就業時間を柔軟化
- 育児・介護での完全テレワーク勤務の導入

● 復職支援

- 復職支援制度
長期傷病休職からの円滑な復職に向けたサポート制度の充実
- ジョブリターン制度
配偶者の転勤や家族の介護、育児を理由に退職する社員を対象に、復職を支援

● 配偶者海外転勤休職制度の新設

- 配偶者の海外転勤に帯同する場合、一定期間の休職が可能

● 介護支援

- 家族に介護が必要になった場合、最大1年間介護休業の取得が可能

● 育児支援

- 病児保育手当を新設し、病児保育を利用した社員に対して、一定額を補助
- 養育休職は、最長で満6歳に達した直後の3月末まで取得可能
- 養育時短は、1日最大2時間、小学4年生の3月まで取得可能
※一定の条件を満たした場合

男性育児休業取得率100%宣言に賛同!

2023年度の男性の育児休業取得率は **64%** でした。



パートナーシップ宣誓制度によりパートナー及びパートナーの家族について届け出て、会社が認めた場合には、婚姻と同等の権利(休暇取得・結婚/出産祝い金・子女入学祝い金・福利厚生施設利用時の家族料金適用等)が認められています。

社員の健康のために

疾病予防への取り組みを充実させ、社員・スタッフの心身の健康維持に努めています。

- 定期健康診断、人間ドック、脳ドック、婦人科検診
- 生活習慣病予防指導
- 社内健康相談センター設置(健康相談室)
総合内科・眼科・整形外科・歯科等の診療や健康管理、健康相談等

フジテレビの「がん対策」各種施策が評価され、「令和5年度 がん対策推進優良企業」として表彰

厚生労働省が推進する国家プロジェクト「がん対策推進企業アクション」における「がん対策推進優良企業表彰制度」において、表彰されました。令和2年度に続いて2回目。

フジテレビの働き方改革への取り組みが評価され、「健康経営優良法人2024(大規模法人部門)」に認定



※健康経営優良法人認定制度とは

特に優良な健康経営を実践している法人を顕彰する制度。「大規模法人部門」と「中小規模法人部門」の2つの部門で「健康経営優良法人」が認定される。健康経営に取り組む優良な法人を「見える化」することで、従業員や求職者、関係企業や金融機関などから、「従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に取り組んでいる法人」として、社会的に評価を受けることができる環境を整備することを目的としている。





自己検証番組を30年以上放送

『週刊フジテレビ批評』

テレビやメディア業界に関わる様々なトピックスを視聴者に届けるこの番組は、民放初の自己検証番組として1992年4月にスタートしました。視聴者から寄せられた意見や「番組審議会」の審議内容、専門家による番組批評とともに、ドラマやバラエティ、スポーツ中継やニュース制作の舞台裏を披露。また放送の最新技術やBPOの見解発表等テレビにまつわる事柄を解説し、「テレビ」をより深く理解し、「メディアリテラシー」の向上につながる番組を追求しています。また近年は、メディアにもその責務が問われている防災やSDGsに関する発信にも力を入れています。 [毎週土曜5:30~6:00放送] ●公式サイト <https://www.fujitv.co.jp/newhiho/>



番組向上への取り組み

番組審議会

番組審議会は、放送番組の適正を図るため、放送法に基づき設置されている審議機関です。2024年4月現在、弁護士、脚本家や教育者等有識者8人で構成されています。月に1回(8・12月は休会)、あらゆるジャンルの番組を対象に、委員からご意見やご指摘をいただき、議事内容は制作現場へフィードバックされ、番組づくりに活かされています。また個別の番組に限らず、放送全般についての質問やご意見をいただき、議事録ダイジェストを社全体に共有しています。概要はホームページに掲載する他、『週刊フジテレビ批評』内でも放送しています。



社外モニター制度

一般視聴者の方から社外モニターを募集し、番組に対する意見を伺っています。アンケート結果や詳細なレポートは番組担当者に届けるとともに、イントラネットへの掲載を通じ、社内全体に共有しています。また、月に1度「モニター会議」を開き、モニターと制作担当者が番組について意見交換を行っています。



ご意見・お問い合わせ

視聴者のみなさまから寄せられた番組等へのお問い合わせ、ご感想、ご意見を、番組制作や各種サービスの向上に役立つよう、貴重な「視聴者の声」としてレポート化、それを全役員、社員に情報共有しています。

2023年度

電話 視聴者対応件数 58,235件
 メール 投稿件数 267,988件

フジテレビは、国民共通の財産である電波を預かり放送事業を営んでいます。そのため基幹メディアとして、緊急災害放送などライフラインの機能を維持し、責任あるコンテンツを送り届けるという使命を担っています。テレビが国民にとって身近なメディアであり、社会に与える影響が大きいことを十分に認識し、放送の公共性を重んじ、放送内容が国民の基本的な人権を擁護するものとなるよう努めることで、社会的責任を果たしてまいります。

放送コンプライアンス

番組基準を定め、基本的人権の尊重をその基本方針のひとつとしています。取材、番組制作、放送等において、人権を侵害することがないように真摯に取り組んでいます。放送人としての基本的な規範をまとめた「放送倫理手帳」と「放送基準解説書」(一般社団法人日本民間放送連盟発行)を全社員・スタッフに配布しています。また「放送コンプライアンス委員会」(月1回)を筆頭に、階層ごとに3つの会議を定期的開催し、迅速な情報共有からトラブル防止の検討まで、活発な意見交換を行っています。



ソーシャルメディアポリシー / SNS対策部 / SNSガイドライン

フジテレビでは「ソーシャルメディアポリシー」をホームページで公開し、会社としてSNSを取り扱う方針や基本姿勢を表明しています。SNSでのトラブルは番組や社員・スタッフのみならず出演者にも及びます。そこでSNSの諸リスクを正しく認識し、様々な問題にも迅速に対処して、適切にSNSを活用できるよう「SNSガイドライン」を策定。

①出演者をまもる ②作り手を含む関係者をまもる ③コンテンツをまもる といった3つの理念を掲げており、また最新動向や情報の更新及び社員に常時携帯してもらうために、このガイドラインをウェブ・アプリ化しています。2021年3月からSNSに関する様々な問題に対応する専門部署として「SNS対策部」を設立。「SNSやネット上の誹謗中傷や迷惑行為は絶対に許さない」という信念のもとで弁護士・臨床心理士・精神科医等法律及びメンタルケアの各専門家や、SNS上にあるフジテレビの番組・コンテンツ、出演者やスタッフへの投稿を24時間365日検知するモニタリング体制も備えています。また、有識者による社内勉強会を開催するなど、SNSリテラシー向上に努めています。

●ソーシャルメディアポリシー <https://www.fujitv.co.jp/company/socialmediapolicy/>

コンテンツのバリアフリー

字幕放送 聴覚障害者やテレビの音が聞こえづらくなった方々にも番組を楽しんでいただくために、テレビの音声[文字]にして画面に表示する字幕放送を行っています。ニュース等の生放送では、[生字幕=ほぼリアルタイムで字幕を付けること]を付与しています。

2022年度実績 ●付与可能時間に対する付与率 100% ●総放送時間帯に対する付与率 70.1%

解説放送 目の不自由な方々にテレビを楽しんでいただくために副音声を使って画面の解説をする解説放送を行っています。

2022年度実績 ●付与可能時間に対する付与率 20.9% ●総放送時間帯に対する付与率 7.8%

児童・青少年向け番組の充実

フジテレビでは、日本民間放送連盟の放送基準に従い、テレビメディアの社会的影響力を十分認識して、少なくとも週3時間、健全なる青少年の育成に配慮した番組を選定し、公表しています。

フジテレビが選定した番組は、以下の6番組です。



人権への取り組み

フジテレビの親会社であるフジ・メディア・ホールディングスは人権尊重への一層の意識向上と体制の充実、また、ステークホルダーのみならずとともに、人権等に関する取り組みを強化していくために、「フジ・メディア・ホールディングス グループ人権方針」を2023年11月に策定しました。放送の公共的使命と社会的責任を常に認識し、幅広い事業活動を通じて国民のみならずの豊かな生活に貢献するとの経営の基本方針のもと、社会から信頼していただけるグループであることをめざし、人権を尊重した事業活動に取り組んでまいります。

フジ・メディア・ホールディングス グループ人権方針

フジ・メディア・ホールディングス(以下、当社)グループは、放送の公共的使命と社会的責任を常に認識し、メディア・コンテンツ、および、都市開発・観光を中心とした幅広い事業活動を通じて、国民の皆様の豊かな生活に貢献することを経営の基本方針としております。

この基本理念に基づき、人権が尊重される社会の実現に力を尽くしてまいります。

本方針は、当社グループが人権を尊重しつつ事業活動に取り組むことを明確にするために定めるものです。

【適用範囲】

本方針は、当社グループの全ての役員と従業員に適用されます。またグループ企業のビジネスパートナーに対しても本方針に沿った人権尊重を期待します。

【人権尊重に関連する規範や法令の遵守】

当社グループは、国際人権章典(世界人権宣言及び国際人権規約)や「労働における基本原則及び権利に関するILO宣言」等の人権に関する国際規範を支持・尊重します。

また事業活動を行う各国・地域において、その国の国内法、その他の規制を遵守します。

【人権尊重へのコミットメント】

当社グループは、「人」を基盤とする企業体であることを大事にし、人権を尊重します。

国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」に基づき人権尊重の取り組みを推進します。

当社はこれまで、2018年4月に「国連グローバル・コンパクト(UNGC)」に署名し、人権・労働・環境・腐敗防止に関する普遍的な10原則を支持することを表明しています。

また2022年5月には持続可能な社会の実現に向けた取り組みを、グループ全体で推進していく上での指針となる「サステナビリティ宣言」を策定し、人権を尊重し、多様な価値を受け入れるインクルーシブな社会の実現等を宣言しました。

今後も事業活動や社会貢献活動を通じて、公平で平和な自由社会を守り、社会に求められる責任を果たすとともに、ひとりひとりが生き生きと働く職場環境を実現するよう努めます。

■差別・ハラスメントの禁止

多様性を尊重し、いかなる差別も行いません。また、セクシュアルハラスメント、パワーハラスメント等、あらゆる形態のハラスメント、いじめ、不当な扱いを認めません。

■適正な労働環境

強制労働、児童労働を認めません。また適正な労働時間、安全で健康的な職場の形成など、安心して働くことができる労働環境の整備に努めます。

■メディアグループとしての人権尊重

メディアが与える社会的な影響力の大きさを認識し、提供するコンテンツやサービスを通じて、基本的人権の尊重につながるよう努めます。

出演者や取材対象者の権利を尊重し、これを侵害しないよう最大限に努めます。

【人権デューデリジェンス】

事業活動が与え得る人権への負の影響を防止、または軽減するため、人権デューデリジェンスの仕組みを構築します。また役職員に対して、本方針の理解を深めるための適切な教育を行います。

【ステークホルダーとの対話】

ステークホルダーとの対話を継続的に行い、外部の専門家にも相談しながら、人権尊重の取り組みを推進します。

【是正・救済】

相談窓口を設けるなど、救済手続きを構築します。人権侵害の申立てがあった場合は、速やかに調査し、必要な対策を講じます。また将来的な人権侵害のリスクを軽減するための予防措置の実施に努めます。

【情報開示】

当社グループにおける人権尊重の取り組みについて、コーポレートサイトにおいて適宜情報を開示します。

「グループ人権方針」の策定に合わせて「フジテレビ コンプライアンス ガイドライン」を整備しました。

策定・公表後には、社内向けにオンライン説明会を開くなど、役員、従業員に向けた周知活動を実施しています。

「フジテレビ コンプライアンス ガイドライン」

「フジテレビ コンプライアンス ガイドライン」は、株式会社フジテレビジョン(以下「フジテレビ」といいます)のすべての役員及び従業員が遵守すべき内部規範を定めるものです。私たちは、当社の企業理念および番組基準などに掲げられた社会的責任、社会貢献、明るい職場の実現のために本ガイドラインを遵守することを宣言します。

<基本理念>

1. 私たちは、メディアの持つ社会的な影響力の大きさを自覚し、社会や視聴者の信頼を広く得られるように、社会情勢の変化にも適時に対応してその責任を果たしていきます。
2. 私たちは、適確で信頼できる情報の発信と健全で良識ある番組・コンテンツの提供を行い、誰もが安全で心身ともに豊かな生活を送ることができる社会の実現に努めます。
3. 私たちは、すべての人の人権を尊重し、法令を遵守し、高い倫理観の下、本ガイドラインに基づいた事業活動を行うことで、公平で平和な自由社会を守り、人それぞれの価値観を大切に、人にやさしい企業であることに努めます。

<行動指針>

1. 社会的責任

- (1) 私たちは、社会の公器としての自覚及び放送人としての使命を胸に、国民の知る権利に応え、言論・表現の自由を守り、公平公正で信頼できる情報を発信し、社会に求められる責任を果たします。
- (2) 私たちは、事業活動を通じて、誰一人取り残されない包摂的な社会の実現を目指し、ジェンダー平等の実現や、その他のダイバーシティに関する施策についても積極的に進めています。
- (3) 私たちは、持続可能な社会の実現のために、事業活動による環境への負荷を低減するよう自ら積極的に取り組むとともに、地球環境保全のための啓発活動を支援します。
- (4) 私たちは、事業活動を通じて、文化、スポーツ、教育の発展を図るとともに、その他の社会貢献活動にも積極的に取り組み、健全な社会の実現に努めます。

2. 人権の尊重

- (1) 私たちは、放送する番組及び事業活動を通じて、多様な価値観を重んじ、人権を尊重します。
- (2) 私たちは、人権侵害行為や不当な差別を許さず、フジテレビの事業活動により影響を受けるすべてのステークホルダー(取引先をはじめとする関係者、取材対象者等を含む。以下同じ。)の人権が侵害されないことがないよう、最善を尽くします。
- (3) 私たちは、従業員やその他のステークホルダーから、人権侵害に関する情報提供や相談を受けた場合には、真摯に耳を傾け、適切に調査し、必要な対策を速やかに講じます。
- (4) 私たちは、自らの事業活動において、何らかの人権侵害行為が行われた可能性のあることが判明した場合には、速やかに誠実に対応し、必要な検証と対策を行います。
- (5) 私たちは、働く者ひとりひとりの人権を尊重し、不当な差別やハラスメントのない、安全で自由闊達な職場環境を大切にします。また、ひとりひとりが生き生きと働くことのできる企業であることで、個人やチームが最大限のパフォーマンスを上げられる状態を目指します。

3. 法令等の遵守

- (1) 私たちは、放送の公共的使命と社会的責任を認識し、放送法を含むすべての法令並びに社会規範を遵守して事業活動を行います。
- (2) 私たちは、フジテレビの番組基準など番組制作に関する社内規則や、その他の社内規則を遵守して事業活動を行います。
- (3) 私たちは、職務上知り得た第三者の秘密情報については法令を遵守して適切に取り扱い、不当に他者に漏洩することなく、業務上必要な目的のためにのみ使用します。また、退職後も業務上知り得た機密情報については漏洩しません。
- (4) 私たちは、個人情報を適正に管理し、個人情報保護法を遵守した取り扱いをします。
- (5) 私たちは、職務に関して知り得た、企業の未公表の内部情報を適切に取り扱い、インサイダー取引を行いません。
- (6) 私たちは、会社の知的財産権を適切に保全すると同時に、第三者の知的財産権を侵害することのないよう慎重に取り組みます。
- (7) 私たちは、会社の職務、地位及び財産を私的な利益のために利用しません。

4. ステークホルダーとの健全な関係

- (1) 私たちは、すべてのステークホルダーと適切な意思疎通を図りながら健全な関係を構築します。
- (2) 私たちは、独占禁止法、下請法などの法令並びに取引先との契約を遵守し、公正、透明、自由な取引を行います。
- (3) 私たちは、取引先との間で、社会通念上不適切な接待、贈答、その他経済的利益の授受を行わず、常に社会規範に即した行動に努めます。
- (4) 私たちは、公務員またはこれに準ずる立場の人たちに対して不正な接待や贈答、利益供与を行いません。
- (5) 私たちは、反社会的な団体及び個人に対していかなる名目での利益供与も行いません。

5. 通報制度の整備

- (1) 私たちは、本ガイドライン違反行為を対象とする従業員からの通報について、通常の指揮命令系統とは別に設置した窓口において、誠実に対応し、コンプライアンス体制の向上に努めます。
- (2) 私たちは、本ガイドライン違反行為を対象とする社外のステークホルダーからの情報提供があった場合にも、誠実に対応します。
- (3) 私たちは、通報者に対して通報をしたことを理由とする不利益な取扱いを一切行いません。

マネジメント体制

フジテレビでは、放送の公共的使命と社会的責任を認識し、すべての人が平和に共存し、心身ともに健やかな生活を維持できる世界の実現につとめます。基本的人権の尊重など民主主義の原則を貫き、公平かつ平和で自由な社会を守るために努力します。そのためにコーポレート・ガバナンス／内部統制／コンプライアンスの仕組みを整備し、実効性を高め、会社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上をめざして、社会からの信頼に誠実に応えてまいります。

● コーポレート・ガバナンス

フジテレビは、国民共通の財産である電波を預かり放送事業を営んでいます。そのため基幹メディアとして、緊急災害放送などライフラインの機能を維持し、責任あるコンテンツを送り届けるといった使命を担っています。テレビが国民にとって身近なメディアであり、社会に与える影響が大きいことを十分に認識し、放送の公共性を重んじ、放送内容が国民の基本的人権を擁護するものとなるよう努めることで、社会的責任を果たしてまいります。

● 内部統制

フジテレビの役員、従業員は、経営理念・経営基本原則に基づいて制定した「フジテレビ行動宣言」を常に意識し、その遵守に努めています。また、当社の業務が健全に行われるよう十分に配慮しつつ、財務報告の信頼性を確保するため、リスクに対応した内部統制システムの充実を図ってまいります。
<https://www.fujitv.co.jp/sustainability/worklife/governance.html>

● コンプライアンス

フジテレビでは、「コンプライアンス及びリスクの管理等に関する規程」に則り、コンプライアンス体制を整備しています。規程を周知することに加え、代表取締役社長を責任者とするコンプライアンス等委員会、実務担当者を構成員とするコンプライアンス等担当者会議を実施することで、リスクの管理の重要性及びその方策等について再度認識を深めています。また、当社は公益通報者保護法に基づいた内部通報制度を実施するとともに、各会議体での周知を繰り返し行うなど、コンプライアンス社内・社外相談窓口の実効性をより一層担保するように努めています。

<https://www.fujitv.co.jp/sustainability/worklife/compliance.html>

